

令和 7年度予算見積調書

課室名: 生産振興課
 担当名: 花き・果樹・特産・水産担当
 内線: 4146 (単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
P78	狭山茶DX推進研究事業			一般会計	農林水産業費	蚕糸特産及び	蚕糸特産研究費	茶業研究所費		
事業期間	令和4年度～ 令和8年度	根拠 法令	なし			針路 分野施策	12 1202	儲かる農林業の推進 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsゴール 9 SDGsターゲット 9-4	
1 事業概要 茶園の集積により経営の大規模化が進む一方、茶園の多くは散在しており、生育や病害虫の発生状況の確認が、茶業者の大きな負担となっている。 また、ICT技術が飛躍的に進む一方で、茶生産への導入は進んでいない。 このため、生育管理データ等の収集や解析にICTを活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施する。 ア 推進事業 44千円 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 8,054千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア 推進事業 44千円 狭山茶DX推進会議において、茶業者等と意見交換や技術の効果検証を行う。 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 8,054千円 ICTを活用した茶生産の実現に向け、試験研究を実施する。 (2) 事業計画 ア 推進事業 ICT活用環境整備 推進会議の実施 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 凍霜害回避 分析データに基づく凍霜害回避の研究 害虫発生予察 画像・環境データの分析による発生予察の研究 防霜ファンの遠隔操作 活用効果の実証による実用性の検討 (3) 事業効果 は場環境データ等のモニタリング及び分析データ利用による茶栽培管理が定着し、作業の適正化・効率化により、高品質かつ効率生産の大規模経営が実現する。 自園・自製・自販による付加価値の高い茶を生産する茶業者においては、データに基づく細やかな栽培管理により、更に味や品質にこだわった商品を製造することが可能になる。 【活動指標(アウトプット)】・推進会議の実施(1回) ・気象データ収集解析(35か所) ・実証モデル活用推進(190人) ・防霜ファンの実用性評価(1事例) □ 【成果指標(アウトカム)】・狭山茶DXアカウントの登録者 190人 ・霜害減少率25% ・発生予察情報に基づく適期防除による収量増800kg(見込) (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 茶業者団体、メーカー、産地市町等と連携を進める。						
2 事業主体及び負担区分 (県10/10、国0)										
3 地方財政措置の状況 なし										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×4人=38,000千円										
予算額		財源内訳							一般財源	前年との 対比
		諸収入								
決定額	8,098	1,500						6,598	1,554	
前年額	6,544							6,544		

事業内訳書

事業名	狭山茶 D X 推進研究事業		
単位事業名	推進事業	予算額	44千円

○歳入 (単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	44	△105	
合計	44	△105	

○歳出 (単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	25	△106	会議等 10回分
需用費	15	0	消耗品費
役務費	4	1	切手、電話代
合計	44	△105	

単位事業名	狭山茶産地における I C T 活用実証試験	予算額	8,054千円
-------	------------------------	-----	---------

○歳入 (単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
諸収入・ 雑入	1,500	1,500	雑入 農業・食品産業技術総合研究機構から

単位事業名	狭山茶産地におけるICT活用実証試験	予算額	8,054千円
-------	--------------------	-----	---------

(単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	6,554	159	
合計	8,054	1,659	

○歳出

(単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	203	203	巡回調査、会議等 29回分
需用費	7,136	1,041	消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料
役務費	300	0	電機工事費、回線手数料
備品購入費	415	415	チャンネル切替器購入費
合計	8,054	1,659	